

藤崎宏子教授 略歴・業績等

I. 略歴（2018年6月30日現在）

生年月日

1952年10月11日 広島県出身

学歴

1971年3月	茨城県立水戸第一高等学校	卒業	
1971年4月	東京教育大学文学部社会科学科（社会学専攻）	入学	
1976年3月	〃	〃	卒業
1976年4月	お茶の水女子大学大学院家政学研究科（家庭経営学専攻）	修士課程	入学
1978年3月	〃	〃	修了
1978年4月	東京都立大学人文学部社会学科	研究生	
1979年4月	東京都立大学大学院社会科学科（社会学専攻）	博士課程	入学
1981年6月	〃	〃	退学

学位

1976年3月	文学士	（東京教育大学）
1978年3月	家政学修士	（お茶の水女子大学）
1998年2月	博士（社会学）	（筑波大学）

職歴

【専任】

1981年7月	東京都立大学人文学部社会福祉学原論講座	助手	（1986年3月まで）
1986年4月	東京都立医療技術短期大学一般教養科	専任講師	（1991年3月まで）
1991年4月	聖心女子大学文学部歴史社会学科	助教授	（2000年3月まで）
2000年4月	同上	教授	（2001年3月まで）
2001年4月	お茶の水女子大学生生活科学部	助教授	（2002年3月まで）
2002年4月	同上	教授	（2007年3月まで）
2007年4月	お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科	教授	（2015年3月まで）
2015年4月	お茶の水女子大学基幹研究院人間科学系	教授	（2018年3月まで）
2018年4月	お茶の水女子大学名誉教授		

【兼任】

1985年4月	清泉女子大学文学部非常勤講師（社会福祉）	（1997年3月まで）
---------	----------------------	-------------

1987年 4月	東京都立大学人文学部非常勤講師 (社会福祉学)	(1988年 3月まで)
1990年 4月	聖心女子大学文学部非常勤講師 (社会学特講Ⅰ)	(1991年 3月まで)
1990年 4月	清泉女子大学非常勤講師 (社会福祉論)	(1991年 3月まで)
1991年 4月	東京都立医療技術短期大学非常勤講師 (社会学/社会学演習/社会福祉論)	(1992年 3月まで)
1992年 2月	お茶の水女子大学家政学部非常勤講師 (家族福祉論)	(集中)
1992年 4月	東京都立医療技術短期大学専攻科非常勤講師 (家族関係論)	(1992年 9月まで)
1993年 4月	清泉女子大学非常勤講師 (社会福祉論)	(1994年 3月まで)
1993年 4月	放送大学非常勤講師 (家族研究入門)	(1994年 3月まで)
1993年 9月	お茶の水女子大学家政学部非常勤講師 (社会福祉論)	(集中)
1994年 4月	お茶の水女子大学生生活科学部非常勤講師 (生涯福祉論)	(1997年 9月まで)
1994年 4月	武蔵大学人文学部非常勤講師 (文献研究演習/専門研究演習)	(1998年 3月まで)
1996年 3月	お茶の水女子大学大学院家政学研究科非常勤講師 (家族社会学特論)	(集中)
1998年 4月	お茶の水女子大学生生活科学部非常勤講師 (家族関係学)	(1998年 9月まで)
1998年 4月	立教大学社会学部非常勤講師 (調査演習)	(1999年 3月まで)
2000年 4月	立教大学社会学部非常勤講師 (社会学特講Ⅱ)	(2000年 9月まで)
2000年 4月	津田塾大学学芸学部非常勤講師 (家族論)	(2001年 3月まで)
2000年 6月	淑徳大学大学院社会学研究科非常勤講師 (社会学特論)	(2コマ分分担)
2000年10月	お茶の水女子大学生生活科学部非常勤講師 (社会福祉学)	(2001年 3月まで)
2001年 4月	聖心女子大学文学部非常勤講師 (社会学演習Ⅰ, 社会学演習Ⅱ)	(2002年 3月まで)
2001年 4月	武蔵大学社会学部非常勤講師 (文献研究演習/専門研究演習)	(2003年 3月まで)
2002年 4月	東洋英和女学院大学非常勤講師 (家族社会学)	(2002年 9月まで)
2002年 4月	聖心女子大学文学部非常勤講師 (福祉社会学ⅠⅡ→社会学特講Ⅰ)	(2014年 9月まで)
2003年10月	慶応義塾大学大学院社会学研究科非常勤講師 (社会学講義)	(2012年 3月まで)
2004年 4月	聖心女子大学大学院文学研究科非常勤講師 (家族・社会システム研究特論Ⅳ)	(2015年 3月まで)
2015年 4月	聖心女子大学文学部非常勤講師 (ライフコースとジェンダー)	(現在に至る)
2017年 4月	桜美林大学大学院老年学研究科非常勤講師 (老年家族社会学特論)	(現在に至る)

学会活動

日本社会学会会員 (1979年～現在に至る)

社会学教育委員会委員 (2000～2003年) / 編集委員会専門委員 (2003～2009年)

関東社会学会 (2008年～現在に至る)

理事 (2008～2009年)

日本家族社会学会会員（1991年～現在に至る）

編集委員（1992～1998年，2001～2002年）／理事（2002～2010年，2013～2016年）／

編集副委員長（2002～2004年）／事務局長（2004～2007年）／編集委員長（2007～2010年）／

研究活動委員会副委員長・学会賞選考委員長（2013～2016年）

家族問題研究学会会員（1978年～現在に至る）

編集委員会専門委員（2010年～現在に至る）

日本社会福祉学会会員（1982年～現在に至る）

編集委員会専門委員（2010年～現在に至る）

日本家政学会家族関係学部会会員（2001年～現在に至る）

役員（2004～2008年，2010～2014年，2016年～現在に至る）／

編集委員長（2004～2008年，2010～2014年）／編集委員（2016～2018年）

福祉社会学会会員（2003年～現在に至る）

理事（2003～2005年）／編集副委員長（2003～2005年）

比較家族史学会会員（2003年～現在に至る）

学内役職（お茶の水女子大学）

生活社会科学講座主任（2004～2006年）

前期課程ジェンダー社会科学専攻長（2006～2010年）

後期課程社会学・社会政策領域代表（2006～2009年，2013～2015年）

全学教育システム改革推進本部会議委員・教育改革部会員（2007～2011年）

前期課程生活政策学コース長（2011～2012年，2016～2017年）

生活科学部カリキュラム委員長（2012～2013年）

人文社会科学研究所の倫理審査委員会副委員長（2014～2015年）

生活社会科学研究会会長（2014～2016年）

『生活社会科学研究』編集委員長（2002～2004年，2014～2016年）

附属幼稚園園長（2014～2018年）

社会における活動

全国社会福祉協議会中央福祉学院，社会福祉主事資格取得通信課程，出題・採点委員（1982～2009年）

生協総合研究所「団塊世代の生活創造研究会」委員（1999～2000年）

豊島区補助金等審査委員会副会長（2001～2002年）

豊島区男女共同参画推進会議副会長（2001～2002年）

内閣府「高齢者の生活と意識国際比較調査」企画委員（2000年，2005年，2010年，2015年）

大学改革支援・学位授与機構 学位審査会専門委員会（社会学部会）委員（2006～2018年）

日本学術会議連携会員（2006～2014年）

家庭裁判所調査官補採用 I 種試験・第 2 次専門試験，出題・採点委員（2003～2010年）

社会福祉士・精神保健福祉士国家試験・試験委員（2009～2013年）

文部科学省 人文学及び社会科学の振興に関する委員会委員（2007～2008年）

文部科学省 教科用図書検定調査審議会委員（2010～2018年）

日本学術振興会 科学研究費委員会専門委員 (2006～2007年, 2015～2016年)

全国国立大学附属学校連盟幼稚園部会常任理事 (2014～2018年)

全国国立大学附属学校連盟幼稚園部会長 (2015～2016年)

日本教育大学協会評議員 (2016～2017年)

II. 業績一覧 (2018年6月30日現在)

【単著・編著書】

1. 『社会学』(新・社会福祉学習双書16)
新・社会福祉学習双書編集委員会(編) 担当編集委員:石原邦雄・藤崎宏子
全国社会福祉協議会 1997.11
2. 『高齢者・家族・社会的ネットワーク』 培風館 1998. 3
3. 『親と子-交錯するライフコース』(編著) ミネルヴァ書房 2000. 7
4. 『社会学』(新版・社会福祉学習双書10)
新版・社会福祉学習双書編集委員会(編) 担当編集委員:藤崎宏子・石原邦雄
全国社会福祉協議会 2004. 3
5. 『ミドル期の危機と発達-人生の最終章までのウェルビーイング』 金子書房 2008. 5
平岡公一・三輪建二と共編著
6. 『現代日本の家族社会学を問う-多様化のなかの対話』 ミネルヴァ書房 2017. 9
池岡義孝と共編著

【雑誌論文・編著書内論文】

1. 「母子寮入寮世帯の質的变化」
『母子研究』No.2 pp.137-148 社会福祉研究所 1979. 3
2. 「母子寮入寮世帯の家族解体-再組織過程」
『家族研究年報』No.5 pp.35-49 家族問題研究会 1979.10
3. 「母子福祉資金借受世帯にみる資金貸付の効果」
『母子研究』No.3 pp.104-119 社会福祉研究所 1980. 3
4. 「母子家庭の諸問題」
『真理と創造』No.16 pp.133-143 佼成カウンセリング研究所 1980.12
5. 「現代の家族問題」(袖井孝子と共著)
『季刊労働法 別冊』第7号 pp.58-65 総合労働研究所 1980.12
6. 「仮説検証型実証研究の再検討- Bott 仮説の追試研究を事例として-」
『社会学論考』第2号 pp.45-70 東京都立大学大学院社会学研究会 1981. 3
7. 「老人扶養における家族, 親族ネットワークと社会福祉サービスの機能分有」
『人文学報』No.157 pp.57-82 東京都立大学人文学部 1982. 3
8. 「事業開始資金・事業継続資金・技能習得資金-母子福祉資金貸付制度の諸問題-」
『母子研究』No.5 pp.28-41 社会福祉研究所 1982.11
9. 「家族と社会福祉」
森岡清美・石原邦雄(編)『社会学概論』pp.114-132 全国社会福祉協議会 1982.11

10. 「母子保護事業調査」
社会福祉調査研究会（編）『戦前日本の社会事業調査』 pp.215-240 勁草書房 1983. 3
11. 「老年期の社会的ネットワーク」
副田義也（編）『日本文化と老年世代』 pp.89-148 中央法規出版 1984. 4
12. 「都市的生活様式の実証研究（その1）－東京都神津島村調査報告－」
※倉沢進ほか8名との共同執筆
『総合都市研究』No.22 pp.5-97 東京都立大学都市研究センター 1984.10
13. 「戦後混乱期の養老施設」
『人文学報』No.179 pp.215-229 東京都立大学人文学部 1985. 3
14. 「母子世帯のストレスと対応」
石原邦雄（編）『家族生活とストレス』 pp.128-149 垣内出版 1985. 6
15. 「対処概念の理論上・実証上の諸問題」
石原邦雄（編）『家族生活とストレス』 pp.363-387 垣内出版 1985. 6
16. 「家族ストレス論の新たな展開－マッカバンの場合－」
森岡清美・青井和夫（編）『ライフコースと世代』 pp.238-270 垣内出版 1985.11
17. 「ライフコースにおける転機とその意味づけ」
森岡清美・青井和夫（編）『現代日本人のライフコース』 pp.73-99 日本学術振興会 1987. 2
18. 「家族解体－再組織過程」
望月嵩・目黒依子・石原邦雄（編）『現代家族』（リーディングス・日本の社会学4）
※論文 No.2の再録 pp.249-265 東京大学出版会 1987. 2
19. 「住宅再建にみる世帯の生活再建」
『人文学報』No.194 pp.195-223 東京都立大学人文学部 1987. 3
20. 「家族危機の過程と資源としての社会福祉」
森岡清美・石原邦雄（編）『社会学概論』 pp.54-68 全国社会福祉協議会 1987. 4
21. 「家庭は拘束かスプリングボードか－家庭の状況に左右される女性たち－」
袖井孝子・矢野真和（編）『現代女性の地位』 pp.133-154 勁草書房 1987. 4
22. 「ホームヘルプ・サービス提供をめぐる意思決定過程」
『東京都立医療技術短期大学紀要』第1号 pp.19-31 東京都立医療技術短期大学 1988. 3
23. 「単親家族の生活と社会的支援」
『教育と医学』第37巻11号 pp.89-95 慶應通信 1989.11
24. 「要介護老人の在宅介護を規定する家族的要因－分析枠組の検討－」
『総合都市研究』第39号 pp.61-83 東京都立大学都市研究センター 1990. 3
25. 「老人の自立意識と扶養期待」
『東京都立医療技術短期大学紀要』第4号 pp.31-42 東京都立医療技術短期大学 1991. 3
26. 「ファミリー・ライフサイクルの変化と更年期」
『日本医師会雑誌』第106巻3号 pp.325-328 日本医師会 1991. 8
27. 「サポート・ネットワークへの期待」
『老年学年報』第2巻 pp.43-52 日本老人福祉財団 1992. 6
28. 「女性のライフスタイルの多様化と更年期」
『産婦人科治療』第65巻3号 pp.249-253 永井書店 1992. 9
29. “Changes in Family Life Cycle and Climacterium”

- Asian Medical Journal* Vol.35 No.9 pp.503-508 The Japan Medical Association
 ※論文 No.26の英訳 1992. 9
30. 「老人福祉サービスの家族要件にみる家族政策のゆくえ」
 森岡清美（監修）石原邦雄他（編）『家族社会学の展開』 pp.262-285 培風館 1993.12
31. 「在宅要介護老人のサポートネットワーク」
 針生誠吉・小林良二（編）『高齢社会と在宅福祉』 pp.35-57 日本評論社 1994. 3
32. 「大都市高齢者の「住み続け」の条件」
 『総合都市研究』第54号 pp.165-177 東京都立大学都市研究センター 1994.12
33. 「高齢者の自立と社会参加」
 『月刊 国民生活』第25巻9号 pp.8-16 国民生活センター 1995. 9
34. 「変貌する家族－医療専門職への期待－」
 『臨床看護』第21巻12号 pp.1751-1757 へるす出版 1995.11
35. 「地域を拠点とするサポート・ネットワークづくり」
 『研修のひろば』NO.80 pp.15-18 特別区職員研修所 1996. 7
36. 「社会福祉サービスの提供と利用」
 新・社会福祉学習双書編集委員会（編）担当編集委員：石原邦雄・藤崎宏子
 『社会学』（新・社会福祉学習双書16） pp.166-186 全国社会福祉協議会 1997.11
37. 「現代社会における家族」
 精神保健福祉士養成セミナー編集委員会（編）
 『社会学』（精神保健福祉士養成セミナー 15） pp.105-130 へるす出版 1998.11
38. 「ジェンダー・ジェネレーション－問題提起－」
 「家族：ジェンダーとジェネレーションのせめぎ合いの場」
 『岐阜を考える』No.100 pp.102-104 / pp.126-130 岐阜県産業経済研究センター 1999. 3
39. 「ホームヘルプサービスの現状と課題－松本市を事例として－」
 日本村落研究学会（編）『高齢化時代を拓く農村福祉』（年報村落社会研究35） pp.157-184
 農村漁村文化協会 1999.10
40. 「家族と福祉政策」
 三重野卓・平岡公一（編）『福祉政策の理論と実際』 pp.111-137 東信堂 2000. 3
41. 「家族はなぜ介護を囲い込むのか－ネットワーク形成を阻むもの－」
 副田義也・樽川典子（編）『現代家族と家族政策』 pp.141-161 ミネルヴァ書房 2000. 5
42. 「現代家族と「家族支援」の論理」
 『ソーシャルワーク研究』Vol.26 No.3 pp.4-10 相川書房 2000.10
43. 「高齢者介護と社会的ネットワーク」
 日本家政学会生活経営学部会（編）『生活経営学研究』No.36 pp.6-11 2001. 3
44. 「家族による介護の“囲い込み”を解くために」
 『介護保険情報』No.22 pp.52-56 社会保険研究所 2002. 1
45. 「介護保険制度の導入と家族介護」
 金子勇（編）『高齢化と少子社会』（講座社会変動8） pp.191-222 ミネルヴァ書房 2002. 5
46. 「現代家族とケア－性別・世代の視点から－」
 『社会福祉研究』第88号 pp.21-26 鉄道弘済会 2003.10
47. 「「老い」とは何か－社会と個人の意味づけ－」

- 袖井孝子（編）『少子化社会の家族と福祉』 pp.66-77 ミネルヴァ書房 2004. 3
48. 「高齢期への移行と「生きがい」」
『生きがい研究』 No.10 pp.41-51 （財）長寿社会開発センター 2004. 3
49. 「生活上のリスク発生と対処の過程」
新版・社会福祉学習双書編集委員会（編） 担当編集委員：石原邦雄・藤崎宏子
『社会学』（新版・社会福祉学習双書10） pp.151-169 全国社会福祉協議会 2004. 3
50. 「福祉改革と家族変動－2つの制度領域間のインターフェイス－」
『福祉社会学研究』 No.1 pp.113-125 2004. 5
51. 「『介護の社会化』－その問題構成」
『法律時報』 78巻11号 pp.37-43 日本評論社 2006.10
52. 「「直系修正家族」のその後－那須宗一の議論を手がかりに」
『Dia News』 No.53 財団法人ダイヤ高齢社会研究財団 pp.3-6 2008.4
53. 「訪問介護の利用抑制にみる「介護の再家族化」－9年目の介護保険制度」
『社会福祉研究』 第103号 pp.2-11 2008.10
54. 「家族」 精神保健福祉士・社会福祉士養成基礎セミナー編集委員会編『社会学－社会理論と社会システム』 へるす出版 pp.105-135 2009. 1
55. 「介護保険制度と介護の『社会化』『再家族化』」
『福祉社会学研究』 第6号 pp.41-57 2009. 6
56. 「日本の家族社会学は今－過去20年の回顧 理論的展開を中心に」
『家族社会学研究』 第20巻2号 pp.135-140 2010.10
57. 「日本の家族社会学は今－過去20年の回顧 研究方法論の展開を中心に」
『家族社会学研究』 第23巻2号 pp.145-149 2011.10
58. 「中高年期の家族関係－ジェンダー・ジェネレーションの視点から」
『ケース研究』 309号 pp.161-193 2011.11
59. 「子育て・介護の『社会化』と地域社会の役割」
『家族関係学』 No.32 pp.39-50 2013.12
60. 「ケア政策が前提とする家族モデル—1970年代以降の子育て・高齢者介護」
『社会学評論』 64：4 pp.604-624 2014. 3
61. 「成人した子どもと親」
平木典子・柏木恵子編著『日本の親子—不安と怒りからあらたな関係の創造へ』 金子書房
pp.127-147 2015.10
62. 「日本作为看护政策前提的家庭模式－20世紀70年代之后的育儿・老年人看护」
『社会政策研究』 2017年第3期 pp.3-20 中華人民共和國民政部政策研究中心 2017. 6
※論文 No.60の中国語訳

【調査報告書】 ——すべて分担執筆

1. 社会福祉研究所『母子福祉の体系に関する研究（その1）』 1978. 2
※代表：副田義也
2. 社会福祉研究所『母子福祉の体系に関する研究（その2）』 1979. 2
※代表：副田義也
3. 社会福祉研究所『母子福祉の体系に関する研究（その4）』 1981. 2

- ※代表：副田義也
4. 東京都生活文化局『女性の地位指標に関する調査報告書（中間報告）』 1981. 4
 ※代表：袖井孝子
5. 東京都生活文化局『女性の地位指標に関する調査報告書』 1982. 6
 ※代表：袖井孝子
6. 交通遺児育英会『交通遺児家庭の母親の職業調査』 1982. 2
 ※代表：副田義也
7. 高齢者福祉問題研究会『初期住宅団地住民の高齢化』 1986. 3
 ※代表：星野信也
8. 東京都立大学社会福祉学研究室・信州大学松岡研究室
 『自然災害と家族－家族ストレス論による2地域長期調査－』 1990. 9
 ※代表：石原邦雄
 執筆部分「復興過程の概況」 pp.19-28.
 「住宅再建と借金の返済」 pp.52-59.
 「生活諸側面の「落ち着いた時期」」 pp.77-83.
9. 財団法人シニアプラン開発機構『サラリーマンの生きがいに関する調査（第2次調査）』 1993. 3
 ※代表：斎藤茂太
 執筆部分「シニア期の夫婦関係と生きがいのパラドックス」 pp.179-23
10. 退職教員研究会『教職員の生涯生活設計に関する実証的研究』（文部省科学研究費総合A報告書） 1995. 3
 ※代表：袖井孝子
 執筆部分「退職教員の趣味・社会活動」 pp.83-93
 「社会活動への参加とその意味づけ」 pp.193-203
11. 総務庁青少年対策本部『子供と家族に関する国際比較調査報告書』 1996. 4
 執筆部分「親子関係の文化差・階層差」 pp.101-132
12. 農政調査委員会『農村の高齢化と介護福祉の組織制度に関する社会経済的研究』 1999. 2
 ※代表 相川良彦
 執筆部分「ホームヘルプサービスの現状と課題－松本市を事例として－」 pp.63-84
13. 副田義也『内務省史の研究』（文部省科学研究費基盤研究A報告書） 2000. 3
 ※代表 副田義也
 執筆部分「社会行政」 pp.145-152
14. 内閣府『高齢者の生活と意識 第5回国際比較調査結果報告書』 2002. 6
 執筆部分「家庭生活」 pp.62-99
15. お茶の水女子大学21世紀COEプログラム「誕生から死までの人間発達科学」プロジェクト4
 『中年女性のライフスタイルと危機的移行－第一次パネル調査報告』 2004. 3
16. 平成14-16年度科学研究費補助金 基盤研究B1 研究成果報告書
 『社会学者は誰に何を教え、どんな人を創っていくのか』 I, II（研究代表者：藤崎宏子） 2006. 2
17. お茶の水女子大学21世紀COEプログラム「誕生から死までの人間発達科学」プロジェクト4
 『中年女性のライフスタイルと危機的移行－第二次パネル調査報告』 2007. 2
18. 内閣府『高齢者の生活と意識 第6回国際比較調査結果報告書』 2007.10
 執筆部分「家庭生活」 pp.82-131

19. 内閣府『高齢者の生活と意識 第7回国際比較調査結果報告書』
執筆部分「家庭生活」pp.106-157 2011.11
20. 副田義也編『戦後日本における内政体制の研究』（平成21-23年度科学研究費補助金 基盤研究
(A) 研究成果報告書）※代表 副田義也
執筆部分「『老人福祉』行政の生成と展開－老人福祉担当課長の語りから」pp.19-26 2012. 3
21. みずほ情報総研株式会社『家族介護者の実態と支援方策に関する調査研究事業
～別居介護・遠距離介護をめぐる実態と支援のあり方～』全155頁（検討委員） 2012. 3
22. 内閣府政策統括官（共生社会政策担当）『高齢者の生活と意識―第8回国際比較調査結果報告書―』
執筆部分「高齢者と子どもの交流―意識と実態にみる日本の特徴」pp.232-237 2016. 3

【翻訳】

1. A. S. ロッシ「男女平等－イデオロギーの誕生－」
袖井孝子（編）『性役割』現代のエスプリ NO.174 pp.185-198 至文堂 1982. 1
2. N. J. ソコロフ『お金と愛情のあいだ－マルクス主義フェミニズムの展開－』
※江原由美子ほか3名と共訳 勁草書房 1987.12
3. イギリス地方政府会計監査委員会報告書『老人社会サービスのより効果的な運営』
※小林良二ほか3名と共訳 老人福祉開発センター 1989. 8

【その他】

1. (書評) 上子武次・増田光吉編『三世代家族－世代間関係の実証的研究－』
『家族研究年報』NO.3 pp.75-78 家族問題研究会 1977.10
※川崎末美, 堤誓子と共同執筆
2. (書評) 袖井孝子・直井道子編『中高年女性学』
『社会老年学』NO.11 pp.77-79 東京都老人総合研究所 1979.10
3. (書評) 青井和夫・庄司興吉編『家族と地域の社会学』
『家族研究年報』NO.7 pp.90-94 家族問題研究会 1981.10
4. (書評) リンダ・K. ジョージ(西下彰俊・山本孝史訳)『老後－その時あなたは－』
『社会老年学』NO.24 pp.105-108 東京都老人総合研究所 1986. 9
5. (書評) 望月嵩・本村汎編『現代家族の福祉』
『家族研究年報』NO.12 pp.107-111. 家族問題研究会 1987. 2
6. (史料解題) 社会福祉調査研究会(編)『戦前日本社会事業調査資料集成(第6巻)
－母子保健・母子保護・婦人救済－』pp.31-43 勁草書房 1992. 1
7. (辞典項目執筆) 森岡清美他(編)『新社会学辞典』
「家族政策」他18項目 有斐閣 1993. 2
8. (書評) 野々山久也編著『家族福祉の視点』ミネルヴァ書房
『家族研究年報』NO.18 pp.104-107 家族問題研究会 1993. 3
9. (エッセイ) 「シニア期の生きがいと夫婦関係」
『ECO－FORUM』Vol.12 No.1 pp.11-13 統計研究会 1993. 4
10. (辞典項目執筆) 井上義朗他(編)『人間生活ハンドブック』
「単親家族」「病理家族」 朝倉書店 1993. 9
11. (高等学校教科書:共著)『生活一般』 中教出版 1994. 3

12. (高等学校教授資料：共著)『家庭科研究』 中教出版 1994. 3
13. (講演記録)「地域に広げよう福祉の輪」
『健康で生きがいのある地域福祉社会をめざして』 pp.3-28 宮城県迫福祉事務所 1994. 3
14. (史料解題)社会福祉調査研究会(編)『戦前日本社会事業調査資料集成(第10巻)
-社会事業行政-』 pp.45-70 勁草書房 1995. 4
15. (エッセイ)「女性の生き方は変わったか」
『TRI-VIEW』第9巻10号 pp.10-15 東急総合研究所 1995.10
16. (インタビュー記事)「歳をとるのは怖くない」
『ZONE』NO.281 pp.3-7 全トヨタ労働組合連合会 1998. 9
17. (座談会記録)「21世紀の課題を考える」
『岐阜を考える』NO.100 pp.6-38
藤崎宏子・米本昌平他8名 岐阜県産業経済研究センター 1999. 3
18. (辞典項目執筆)庄司洋子他(編)『福祉社会事典』
「家族介護」他5項目 弘文堂 1999. 5
19. (辞典項目執筆)日本生活学会(編)『生活学事典』
「夫婦」 TBSブリタニカ 1999. 7
20. (エッセイ)「理論と実践」
森岡清美先生喜寿記念誌編纂委員会(編)『出会いの知的生態学-森岡研究室からの出発-』
森岡清美先生喜寿記念誌編纂委員会(非売品) pp.115-121 2000.10
21. (書評)日本家政学会生活経営部会編『福祉環境と生活経営』
『季刊 家計経済研究』No.49 pp.93-95 2001. 1
22. (生涯学習用冊子)『図説・女性と高齢社会』
伊藤セツ・岡村清子と共著 (財)日本女性学習財団 2002. 6
23. (辞典項目執筆)秋元美世他編『社会福祉辞典 書籍版』『社会福祉辞典 CD-ROM版』
「家族」他6項目 有斐閣 2003.12
24. (一般向けパンフレット)お茶の水女子大学21世紀COEプログラム
『ミドル期女性が歩むライフコース』お茶の水女子大学21世紀COEプログラム 2004. 3
25. (辞典項目執筆)日本精神保健福祉士協会・日本精神保健福祉学会監修『精神保健福祉用語辞典』
「核家族」他5項目 中央法規 2004. 7
26. (事典項目執筆)日本家政学会編『新版 家政学事典』
「介護保険制度」 朝倉書店 2004. 7
27. (テキスト項目執筆)「学習の発展段階」
香西みどり他編『栄養教育論』(スタンダード栄養・食物シリーズ11) pp.89-92
東京化学同人 2004. 9
28. (書評)佐藤康行著『毒消し売りの社会史-女性・家・村-』 日本経済評論社 2002
『社会学評論』第55巻第3号 pp.55-57 日本社会学会 2004.12
29. (書評)神原文子著『家族のライフスタイルを問う』 勁草書房 2004
『家族社会学研究』第16巻第2号 pp.74-75 日本家族社会学会 2005. 2
30. (研究報告)「高齢者と家族介護者へのサポートネットワーク」
静岡学術フォーラム事務局編『第9回 静岡 健康・長寿学術フォーラム記録集：
現代社会における“心と体の健康”』 pp.145-150 静岡県 2005. 3

31. (エッセイ)「ミドル期をどう生きる－発達研究からみた女性のライフコース－」
『月刊 We learn』vol.629 pp.3-6 財団法人日本女性学習財団 2005. 3
32. (座談会記録)「高齢期を尊厳を持って生きること・支えること」
久塚純一・藤崎宏子・本沢巳代子／犬伏由子(司会)
『法律時報』Vol.77 No.5 pp.4-20 日本評論社 2005. 5
33. (エッセイ)「個の古い・関係性の中の古い」
『楽園』25巻 pp.46-49 MOA インターナショナル 2006. 8
34. (書評)春日井典子著『介護ライフスタイルの社会学』世界思想社 2004
『福祉社会学研究』No.3 pp.153-157 2006. 6
35. (一般向けパンフレット)お茶の水女子大学21世紀COEプログラム
『ミドル期女性が歩むライフコース～3年後の追跡調査～』
お茶の水女子大学21世紀COEプログラム 2007. 7
36. (雑誌特集序文)「ワーク・ライフ・バランス～一人ひとりの豊かな生活を求めて～」
『家族関係学』No.26 pp.1-3 (久保桂子と共著) 2007.12
37. (雑誌特集序文)「高齢者ケアと家族—ケアの社会化をめぐる～」
『家族関係学』No.28 pp.1-3 (長津美代子と共著) 2009.12
38. (辞典項目執筆)「中高年期の家族関係」
日本社会学会社会学事典刊行委員会(編)『社会学事典』丸善株式会社
pp.268-269 2010. 6
39. (書評)野沢慎司著『ネットワーク論に何ができるか』勁草書房 2009年
『社会学評論』第61巻2号 pp.216-217 2010. 9
40. (エッセイ)「福祉問題の広がり」と新たな絆の創造—個人・家族・地域」
『福祉タイムズ』No.712 神奈川県社会福祉協 pp.8-9 2011. 3
41. (書評)後藤澄江著『ケア労働の配分と協働—高齢者介護と育児の福祉社会学』東京大学出版
会2012
『福祉社会学研究』No.10 p.215-219 2013. 6
42. (ハンドブック項目執筆)福祉社会学会編『福祉社会学ハンドブック—現代を読み解く98の論点』
中央法規
執筆項目:「介護保険は高齢者介護を変えたか?」 pp.198-199
「インフォーマル・ケアとフォーマル・ケア」 pp.204-205 2013. 7
43. (書評セッション記録)副田義也著『福祉社会学の挑戦—貧困・介護・癒しから考える』岩波
書店2013
『参加と批評』第8号 pp.129-204 (時岡新・藤崎宏子・坂田勝彦・株本千鶴・藤村正之・副田義也)
2014. 3
44. (文献紹介)岩田正美他編著『一番ヶ瀬社会福祉論の再検討—生活権保障の視点とその広がり』
ミネルヴァ書房 2013 『家族社会学研究』第26巻第2号 p.187 2014.10
45. (書評)永久欣也・飯田哲也編著『保育の社会学—子供と大人のアンサンブル』学文社 2014
『生涯研究』No.21 pp.14-17 2015. 3
46. (雑誌特集序文)「少子高齢化と日本型福祉レジーム—シンポジウムの趣旨と概要—」
『家族社会学研究』Vol.27 No.1 (久保田裕之と共著) pp.20-23 2015. 4
47. (事典項目執筆)比較家族史学会編『現代家族ベディア』弘文堂

- 執筆項目：「高齢者と暴力」「高齢者虐待」「介護殺人・心中の実態」「高齢者の孤立死」 2015.11
 48. (書評) 森川美絵著『介護はいかにして「労働」になったのか—制度としての承認と評価のメカニズム』
 ミネルヴァ書房 2015 『日本労働研究雑誌』No.665 pp.101-104 2015.12
 49. (エッセイ)「子どもたちの間に立ち上がる「社会」」
 『幼児の教育』第117巻秋号 フレーベル社 2018.10 (近刊)

Ⅲ. 論文指導 (2001 ~ 2017年度)

1. 卒業論文 (・第一ゼミ ◆第二ゼミ) 124人

2003年度

- ・青柳麻衣子 『能の世界とジェンダー—女流能楽師の活動から—』
- ・渥美朝子 『外見への価値意識について』
- ・荒井晶子 『若者の応援行動と日本に対する意識の関係についての考察』
- ◆加藤文 『若者の抱く高齢者イメージ』
- ◆佐藤茉莉 『介護保険制度における高齢者のためのケアマネジメント』

2004年度

- ・新山加奈 『住宅改修による高齢者のQOLの向上—ケアマネージャーへのインタビューから—』
- ・橋本理沙 『若者はなぜ国際ボランティアに参加するのか—活動への評価に潜む日本人意識—』
- ◆小川真理子 『自治体のドメスティック・バイオレンス政策—千葉市の施策を事例として—』
- ◆平澤文美 『在日ベトナム系住民たちの料理店—活用されるネットワーク, 日本社会との関わりを中心に—』

2005年度

- ・伊藤友里子 『ホームレス問題に取り組むNPO—その活動実態と役割—』
- ・神名千尋 『特養利用者に提供されるレクリエーション—利用者の要望と介護職員のねらい—』
- ・坂口牧子 『出産経験の評価』
- ・清水直子 『国際交流ボランティア活動と外国人の受け入れ意識』
- ・高原美樹 『女子大生のライフコース選択に影響する家族的要因』
- ・田中孝枝 『観光パンフレットの変遷にみる日本イメージの構築—英語版と中国語版の比較—』
- ・原めぐみ 『新規就農者の職業意識』
- ・永江鈴子 『人身売買のメカニズムを探る—来日女性の記録分析を通して—』
- ・兵頭菜美 『男性ヘルパーにみる介護労働の現状と課題』
- ・岡本はる奈 『若者世代のきょうだい関係と友人関係—類似点と相違点—』

2006年度

- ・木村由李 『高齢者の社会参加と地域貢献—子育て支援活動の場合—』

- ・ 後藤麻里 『ソーシャルネットワーキングサービス (SNS) の流行と若者のコミュニケーション』
- ・ 玉井美帆 『テレビドラマが描く現代女性にとっての「結婚」』
- ・ 綱川由希子 『ジュニアブランドの価値—母親への意識調査を通して—』
- ・ 中山茉莉 『中高年世代にとっての化粧—化粧品購買行動を中心に—』
- ・ 浜山恵梨子 『集い学ぶ高齢者たち—社会参加型学習活動の実態—』
- ・ 山本禎子 『農村地域における親戚づきあい—儀礼的つきあいの残存と衰退—』
- ・ 脇清香 『ホームレス自立支援におけるアフターフォローワーカーへのインタビューを通して—』
- ・ 渡邊裕子 『進路選択における親との関わり—浪人生へのインタビューを通して—』
- ・ 長居里奈 『日本の生殖補助医療における法整備について』
- 2007年度
- ・ 小林加代子 『「義士」とは何か—赤穂浪士の評価をめぐって—』
- 2008年度
- ・ 浅見真理子 『ワークライフバランス政策の課題—自治体・企業・制度利用者に対するインタビューから—』
- ・ 桑名美久 『女子非行の背景と処遇のあり方』
- ・ 田中枝里 『中高生の生活空間・生活時間と親子コミュニケーション』
- ・ 豊嶋真己子 『トレーサビリティシステムから考える食の安全・安心—信頼できる「食」の実現に向けて—』
- ・ 中村聡子 『外国人介護労働者の受入れに対する介護施設の評価』
- ・ 橋本亨子 『郡山市の重点整備地区商業の活性化に対する提言』
- ・ 荻野祥江 『新しい価値観としての「ロハス」』
- ・ 武市典子 『青年期男性のファッション行動と外見に対する意識』
- ◇ 宮坂朱美 『日本における外資系小売企業—コストコホールセール・イケアを事例に考える—』
- 2009年度
- ・ 植村沙知 『墓の多様化からみる家族の変容—都市型霊園に着目して—』
- ・ 清水茉莉子 『親世代から子育てを協力を得る母親たち—中期親子関係を考える—』
- ・ 藤井美郷 『消費者にとってのプライベートブランド—女性に対するアンケート調査をもとに—』
- ・ 宮下麻理 『子育てひろばによる子育て支援—運営者と利用者のインタビュー—』
- ・ 望月聡子 『ニュータウンはオールタウンか—多摩ニュータウンの場合—』
- ・ 山田晶子 『域情報の受信と発信—自治会・町会へのインタビューから—』
- ・ 辛 恩榮 『韓国における青年期の子どもに対する親の期待—母親へのインタビュー調査を通じて—』
- ◇ 馬橋碧 『結婚式の変遷と展望—結婚式の産業分析とお茶大生による質問紙調査から—』
- ◇ 峠田彩香 『近代的「子ども」像と「少女」への一考察—雑誌『赤い鳥』の分析から—』
- ◇ 石渡美晴 『災害とジェンダー—防災対策における女性参画の意義—』
- ◇ 齊藤愛香 『「死の谷」の克服のために—電子ペーパーと手のひら静脈認証技術を事例

- に考える—』
- ◇新村あゆみ 『男性の摂食障害—発症から回復まで—』
 - ◇松浪玲奈 『結婚情報サービスからみる現代日本の「婚活」』
 - ◇三浦由希恵 『男性介護労働者と利用者、及び職員との関係について』
 - ◇佐久間麻由 『母親の子どもへの投資行動について—教育関連投資と服飾投資の分析を通して—』
 - ◇廣瀬明子 『企業の教育貢献活動について—CSRの視点から考える—』
 - ◇原田平有香 『「ご当地キャラクター」について考える—「ゆるキャラブーム」の現状とこれから—』
- 2010年度
- ・大森望 『老人クラブの現状と課題—山梨県と文京区のクラブでのインタビューから—』
 - ・嶋田千郷 『「世論」は死刑を支持しているのか—ディスカッションによる意見変容から—』
 - ・清水美紀 『インターネットコミュニティ・掲示板にみる現代の子育てと育児不安—相談者・返信者の対話に注目して—』
 - ・鈴木朝 『介護サービス利用における高齢者の自己決定—デイサービス利用者の場合—』
 - ・瀧澤夏佳 『望まない妊娠への公的支援—地方公共団体調査からの考察—』
 - ・樋口万智 『産科医療における院内助産システムの可能性』
 - ・平嶋由梨子 『若者が営むシェア生活内の人間関係—シェア生活を実践する若者へのインタビューから—』
 - ・キョウ 佳 『在日日本人と結婚した中国人女性たち—国際結婚における異文化適応—』
 - ・藤元順子 『テレビの歴史からみるお笑いの変遷—お笑い芸人とテレビ番組を中心に—』
 - ・松井（青木）由香 『シングル介護—その介護態勢とサポートネットワーク—』
- 2011年度
- ・飯田周 『手づくり市における緩やかな絆とその社会的意味—地域社会・消費社会・芸術文化における位置づけ—』
 - ・行事理菜 『日本の絵本にみる時代変遷—「こどものとも」を素材として—』
 - ・佐藤愛美 『学生サークルの活動とジェンダー意識』
 - ・佐藤萌子 『大学生のUターン志向』
 - ・出口頌子 『被爆体験の語りと継承可能性—長崎における語り部活動からの考察—』
 - ・戸村恭子 『地域防災を考える—消防団・自主防災組織・行政へのインタビューから—』
 - ・望月麻美 『夫婦はどのようなときに離婚を考えるのか—新聞の身の上相談にみる100年の変遷—』
 - ・曹 玲梅 『「おごり」と「割り勘」の社会学—在日中国人留学生へのインタビューから—』
 - ・麻生真白 『ドメスティック・バイオレンスにおける男性被害者支援の現状と課題』
- 2012年度
- ・川田祐以 『教師のメンタルヘルスを考える—保護者との関係に注目して—』
 - ・私市圭子 『ゲームセンターに憩う高齢者たち—多様な「高齢者像」の一端を探る—』

- ・ 富高美咲 『「かわいい」を多用する若者たち～性別・文化による比較から～』
- ・ 堀上早紀子 『大学生のSNS等コミュニケーションツールの使い分けとつながり』
- ・ 阿部結月 『「料理男子」とジェンダー意識』
- ◇ 島村悠紀 『高齢者の社会的孤立を防ぐ地域の取り組み』
- ◇ 高橋美伶 『日本の法教育を批判的に検討する—シティズンシップの立場から—』
- ◇ 中川由紀子 『面会交流における現状と課題—支援団体、当事者団体、弁護士の視点からの考察—』
- ◇ 花岡咲子 『高学歴独身男性はどのような結婚生活を望むのか—妻の就業の在り方への期待を中心に—』
- 2013年度
- ・ 伊豫谷帆夏 『食品ロス削減に向けた食品流通のあり方—食べられずに捨てられる食品たち—』
- ・ 岡松佐保子 『「孫育て」をする祖父母たち』
- ・ 馬場恵子 『医療政策の変容に伴う医療ソーシャルワーカーの役割—静岡県におけるインタビュー調査を通じて—』
- ・ 廣木菜穂美 『高齢期の友人関係—ライフコースとジェンダーの視点から—』
- ・ 牧濤 『住宅雑誌にみる住宅観の変遷—『新しい住まいの設計』の掲載プラン分析から—』
- ・ 望月優希 『若者のテレビ離れ—テレビ番組の「話題としての価値」に注目して—』
- ・ 鶴巻千尋 『結婚を求める中高年世代—結婚情報産業へのインタビューから—』
- 2014年度
- ・ 大場真理子 『大人になった発達障害者たち—その困難と必要なサポート—』
- ・ 村山佳奈子 『知的障害者の就労支援—支援者へのインタビューを通じて—』
- ・ 桧垣沙織 『「ひきこもり」の生きづらさ—Web掲示板でのやり取りを素材として—』
- ・ 松田郁代奈 『ルーマニアにおける教会とNPO・NGOとの関係性』
- ◇ 長田真弥 『現代における結婚式についての—考察—インターネット掲示板の書き込みに注目して—』
- ◇ 上村美悠 『母親の子育てひろばの利用とその影響—母親の変化、夫の変化に焦点を当てて—』
- ◇ 高見純子 『「第2の活動」論—自己実現のためにサードセクターで行う活動—』
- ◇ 浦田雅子 『スウェーデンにおける学生の育児休業取得願望—現地でのインタビュー調査から—』
- 2015年度
- ・ 斉藤仁美 『大学生はなぜTwitterでつぶやくのか—利用者の語りから—』
- ・ 志村真由子 『多世代シェアという住まい方—運営団体へのインタビューから—』
- ◇ 安部美乃里 『訪問保育サービス事業の実態と課題に関する考察—事業者へのインタビュー調査から—』
- ◇ 小犬丸美紅 『結婚支援事業の意義を問う—都道府県の概要調査とインタビュー事例から—』
- ◇ 椛山優香 『消費者の自立支援施策に関する考察—地方自治体を中心とした実態調査から—』

◇松野叶実 『フィクション作品の消費と戦争意識—「艦これ」と「永遠の0」からの分析—』

2016年度

- ・岡田悠理子 『中小企業における働く介護者への支援の実態と課題—資料分析とインタビュー調査の結果から—』
- ・郡園子 『大学生の同性経験と結婚観に関する一考察—同性経験者へのインタビューから—』
- ・佐藤理子 『大学生の食意識について—「一人食」に対する意識を中心に—』
- ・柴崎真衣 『待機児童問題に対する当事者活動とその意義に関する考察—5つの保護者グループへのインタビューから—』
- ・高木詩織 『の身の上相談にみる子育てにおける親の悩みと不安—30年間の記事分析—』
- ・西菜々子 『徳島県における女性活躍の現状—管理職の女性へのインタビューを通して—』
- ・村上愛実 『「2.5次元ミュージカル」を考える—ファン8人のインタビュー分析から—』
- ・岩附愛子 『高齢者の社会的孤立防止に関する自治会の役割—高島平二丁目団地の組織間連携を事例として—』

◇田村ひかり 『なぜ大学生は恋愛交際から遠ざかるのか—「相手の内面に立ち入らない優しさ傾向」からの考察—』

◇永倉麻里 『女性の単身赴任・母子赴任—大学教員の事例を中心として—』

2017年度

- ・佐々木知華 『高齢者の社会的孤立と犯罪に関する研究』
- ・片岡唯 『高等学校におけるセクシュアル・マイノリティ生徒への対応と性教育—家庭科・保健体育科教員へのインタビュー調査から—』
- ・神野成美 『労働組合における女性参画推進—産業別組織へのインタビューから—』
- ・鈴木つかさ 『学校外での学習支援活動の現状と課題—6グループへのインタビュー調査から—』
- ・竹内伶於奈 『迷惑行為とマナーに関する意識と行動—若者と中高年世代の比較から—』
- ・長岡明日香 『男子大学生の身だしなみ行動とジェンダー意識』
- ・久留ケヤキ 『佐世保市における特産品の地域ブランド化の過程—行政と民間事業者へのインタビューから—』
- ・吉永あすみ 『シニア劇団にみる演劇の可能性—指導者と劇団員のインタビューから—』
- ・高橋京子 『介護職への男性参入に関する考察—男性ホームヘルパーの場合—』

2. 修士論文（主指導・主査分のみ） 24人

2004年度

- ・羽根文 『介護殺人・心中事件にみる高齢者介護の困難—新聞記事の分析を通して—』
- ・吉岡なみ子 『高齢者介護施設におけるケア職員の相互作用過程と施設ケア秩序—』
- ・李 偉萍 『一人っ子の親世代の世代間関係と扶養期待—福建省廈門市の場合—』

2006年度

- ・薛 迪 『中国都市部における高齢者福祉のあり方—社区ボランティア活動を中心に—』

2007年度

- ・ 鄭 亜楠 『中国都市部における世代間扶養の現状と課題——一人っ子の親世代の視点から—』
- 2008年度
 - ・ 大場幸子 『女性の職業キャリア上の転機によるコミットメントの変化—長期就業者を事例として—』
 - ・ 小林絵里子 『「ひきこもり」とみなす／みなされる人々とアイデンティティ—セルフヘルプグループという〈場〉に注目して—』
 - ・ トーンペンヤイ・アッチャラワディー 『タイに長期滞在する日本人中高年者—パーソナルネットワークの変化と適応—』
- 2009年度
 - ・ 山本禎子 『現代日本における「孫育て」—祖父母たちによる意味づけと背景—』
 - ・ 徐 琴 『中国女性農民工のライフコースと家族生活—家族関係維持のための戦略に注目して—』
- 2011年度
 - ・ 鄒 思明 『中国「80後（バーリン・ホー）世代の自意識と親子関係—在日留学生と在米留学生の比較を通して—』
- 2012年度
 - ・ 大森美佐 『「ケータイ世代」の対人関係と恋愛観・恋愛行動』
 - ・ 松井（青木）由香 『男性が介護する／看取るということ—セルフヘルプ・グループに集う夫・息子介護者の事例から—』
 - ・ 蔡 夢夏 『中国都市部における定年前後の夫婦関係—福州市に在住する女性の語りから—』
- 2013年度
 - ・ 伊東由貴 『聴覚障がい者のキャリアと職業アイデンティティ—きこえないこと・職業人であること—』
 - ・ 許 斯雋 『中国都市部の社区における中高年者の社会参加活動と友人関係—長沙市における調査をもとに—』
 - ・ 李 心儀 『中国都市部における孫育てと世代間関係—白銀市の調査から—』
 - ・ 高橋奈緒美 『同性カップルの「家族」形成—同性パートナーと子どもを育てる女性の語りから—』
- 2014年度
 - ・ 湯舟由美 『専業主婦から働く主婦へ—主婦役割観に注目して—』
 - ・ 日影真弓 『母親になる女性たちの子育てサークル内外の友人関係とアイデンティティ—「ギャルママ」と呼ばれる女性たちの語りから—』
 - ・ 康 穎 『中国都市部の離婚経験者の語り—夫婦関係の継続と破綻—』
- 2015年度
 - ・ 鶴巻千尋 『多様化する中高年世代の結婚のあり方』
- 2016年度
 - ・ 楊 伊麗 『結婚費用への支援からみる中国の青年期親子関係』
- 2017年度

- ・ 山川慶子 『共働き世帯の妻におけるストレスとコーピング行動—専門職の女性を中心に—』

3. 博士論文（・課程博士 *論文博士）

【主査分】 16人

2005年度

- *長津美代子 『中年期における夫婦関係の研究：個人化・個別化・統合の視点から』

2007年度

- ・ 梁 明玉 『有料老人ホーム入居高齢者の社会関係と主観的幸福感に関する研究—日本と韓国の比較—』

2008年度

- ・ 辺 静 『中国の歴史変動と「共和国同齡人」のライフコース—文化大革命期の子どもたち—』
- *長沼（下夷）美幸 『離婚後の養育費政策に関する研究—国家による家族介入の必要性和危険性—』

2010年度

- *秋本（井上）清美 『現代日本の母親規範と自己アイデンティティに関する研究—ファミリー・サポート事業を事例として—』
- ・ 川上裕子 『日本における保健婦事業の成立と展開—戦前・戦中期を中心に—』
- ・ 庭野晃子 『子どもをもつ共働き夫婦の「対等性」に関する質的研究』
- ・ 松島悦子 『子育て期の女性たちが友人と行う共食の実態と機能—互酬性とネットワークの観点から—』

2011年度

- ・ 于 建明 『中国都市部における中年期男女の夫婦関係に関する質的研究—ライフコース論の視角から—』
- ・ 三部倫子 『レズビアン・ゲイ・バイセクシュアル「家族」の質的研究—可視性をめぐるジレンマと親子の相互作用—』

2013年度

- *杉下（齋藤）暁子 『ケアの関係性の再考—高齢者とヘルパーの視点からみるホームヘルプサービス—』

2014年度

- ・ 安藤藍 『里親であることの葛藤と対処—家族的文脈と福祉的文脈の交錯—』

2015年度

- *前田尚子 『地方都市における在来産業の盛衰と家族戦略—岐阜既製服産地の事例分析—』

2017年度

- *森やす子 『高齢者のインターネット利用と社会関係—ICT 第一世代に着目して—』
- ・ 郭 麗娟 『ポスト青年期を生きる高学歴独身女性たち—鳥根県と首都圏でのインタビュー調査をもとに—』
- ・ 大口（大森）美佐 『現代日本の若者はいかに「恋愛」しているのか—首都圏の高学歴・正規雇用者の場合—』

【副査・審査委員分】

36人

2003年度

* 佐藤宏子

『農村直系制家族における中高年女性の世代間関係—静岡県志太郡岡部町朝比奈地区における追跡研究—』

* 梶潟俊子

『有機農業運動の展開と〈提携〉のネットワークの形成』

・ 渡瀬典子

『学校教育における福祉体験学習の研究—高等学校家庭科における高齢者関連学習を中心に—』

2004年度

・ 篠崎香子

『トランスナショナルな移動とシティズンシップをめぐる交渉—在独フィリピン人移住家事労働者に注目して』

・ 金 智美

『福祉国家体制の確立期における自治体福祉政策過程と「日本型福祉レジーム」』

2005年度

* 佐藤裕紀子

『大正期における新中間層主婦の時間意識の形成』

* 西律子

『都心周辺部における単身高齢者の居住空間：ライフヒストリーによるアプローチ』

2006年度

・ 塩谷幸子

『食文化の継承意識に影響する家族関係—正月料理の変化を通して—』

・ 表真美

『「食卓での家族団らん」の歴史の変遷—家事科教科書・家庭科教科書における記述を中心に—』

* 堀口美智子

『乳幼児をもつ親の夫婦関係に関する研究—子どもの誕生が夫婦関係満足度に及ぼす影響を中心に—』

* 若本純子

『老いと自己概念の媒介機能によって捉えた中高年期発達の機序』

* 鷗沢由美子

『専門職とジェンダー—税理士と研究者の《場》における女性の位置づけとその変容の可能性—』

2007年度

・ 菊池いづみ

『高齢者介護政策の転換と家族介護への現金支払い—地方自治体の意向分析を通して—』

* 中村英代

『摂食障害からの回復—回復者を対象とした質的調査に基づく社会学的考察—』

* 林葉子

『夫婦間介護における介護役割形成プロセスに関する研究』

2008年度

・ 栗本京子

『「景観を守る」ということ—戦後日本の景観と公共性—』

・ 蟹江教子

『未就学児を持つ夫婦の就業、家事・育児負担が心身の健康に与える影響』

* 池田（山井）理恵

『支援困難なクライアントに対するケアマネジメントの質的研究—在宅介護支援センターのケアマネジャーを対象として』

2009年度

・ 尹 鳳先

『中国女性の二重負担の問題—「女は家に帰れ」キャンペーンを中心に—』

・ 藤田智子

『青年期の身体像と食生活行動—日常知と学校知からの家庭科教育の検討—』

2011年度

・ 金 明華

『現代中国におけるファン・カルチャー—李宇春のファン「玉米」への質

- 的調査を中心に—』
- ・ 谷田征子 『子育て期の夫婦関係と自己成長—夫婦の相互性と時間的展望との関連—』
 - ・ 尹 鈺喜 『韓国における成人移行期の親子関係と自立戦略—大卒の未婚男女とその父親・母親のインタビューから—』
- 2012年度
- ・ 木村祐子 『子どもの不適応・逸脱の医療化—日本の学校・療育施設・矯正教育の現場における実践家の解釈過程—』
 - ・ 小川（枝本）真理子 『日本における DV 被害者支援と民間シェルターの役割に関する一考察』
- 2013年度
- ・ 熊田陽子 『「おんなのこ」として性風俗世界に生きる—ある東京の無店舗型 SM クラブを通して見た都市的“性”様式に関する研究—』
- 2015年度
- ・ 大風薫 『中年期未婚女性の経済資源と親支援役割—二次データ分析から見る幸福度との関係の変化—』
 - * 大橋（堀）有喜衣 『高校就職指導の教育社会学的研究—選抜・配分機能の類型化による「80年代型」仮説の再検討—』
 - * 杉浦貴代子 『フィリピンにおける幼児への心理臨床的支援に関する研究—就学前教育支援プログラムの構築を通して—』
- 2016年度
- ・ 李 知淵 『韓国における家族計画事業の経験—1960~70年代の農村の女性動員との関連から—』
 - ・ 高丸（今村）理香 『女性の就業中断経験は再就職のための資源として活用されるか—海外駐在員妻へのインタビューから—』
 - * 佐野潤子 『有職母親のキャリア教育経験が仕事満足度へ与える影響—学際的視点からの検討—』
- 2017年度
- ・ 花形美緒 『子どもの生活自立をめぐる母親の役割移行』
 - ・ 岡村利恵 『未就学児を持つ母親の ICT 利用と生活充実感—日本と韓国・米国・スウェーデンの比較から—』
 - ・ 橋本嘉代 『現代日本における望ましい父親像の構築—雑誌・ソーシャルメディアの〈父〉言説の形成と受容—』
 - ・ 知脇希 『介護保険制度下における介護職の定着と家族介護者の就業：二次分析による実証研究』
- 【他大学博士論文：審査委員分】 3人**
- ・ 楊 雪 『高齢者扶養と高齢期の世代間援助に関する日中比較—瀋陽市と東京都・横浜市の事例を通して—』（慶応義塾大学大学院 2011年度）
 - * 奥山正司 『高齢者家族の福祉社会学的研究』（東洋大学大学院 2013年度）
 - ・ 税所真也 『成年後見の社会化に関する社会学的研究』（東京大学大学院 2017年度）